

# 天地

ネットワークテーブル 525号

天地シニアネットワーク 2021. 11. 15

TENTI TODAY			1
会員の広場			2
外国語	中国人から見た日本人の言語表現理(28) 己を隠して自然的表現を好む心理	兪 彭 年	2
旅行記	「再び、そうだ京都へ行こう」(3)	池端 千一郎	4
回 顧	(再掲)海外の思い出—ゴルフ場 (2)南アフリカ	森永 吉彦	6
紹 介	もう一人の杉原千畝 東条英機を説得し ユダヤ人を救った 陸軍将校(上)	望田 武司	10
回 顧	国立慕情(8) 一橋・籠城事件	津田 孚人	13
事務局			16

\*\*\*\*\*

## TENTI TODAY

\*\*\*\*\*

毎回登場の伊那闊歩さん、体調不十分で今回はお休みです。老いの身ともなると、無理は禁物です。

\*\*\*\*\*

小田急線、京王線と車内での殺傷事件がつづきましたが、深刻なのは、理由、原因のよく分からない刹那的な殺傷事件ということです。最近の日本社会、精神的に病んでいるように見えてなりません。日本社会のあるべき姿、どのように進むべきか、真剣に問い直す時期にあるようです。政界も経済界も、思い切って20代、30代へと若返りを図るべきです。

\*\*\*\*\*

今回の衆議院議員選挙、国民は自民党・岸田政権を選びましたが、長年続いた自民党の政策は、底が割れています。新しい自民党の新しい政策が待ち望まれます。国際社会は、難しい局面にあります。先陣の残した日本にしかない「平和憲法」を遵守して、国際社会のリード役となる、若い新しい世代の登場を期待したいのですが。

\*\*\*\*\*

コロナ禍も少し落ちつき、諸対策も進んでいるようで一安心ですが、ここに来て生活関連物資の値上げという大きな心配が出てきました。際限のない日銀の国債引き受けで財政赤字の拡大を埋めている日本、バラマキ政策のような実の伴わない財政支出は極力止めるべきです。

\*\*\*\*\*

最近出版された「嫌われた監督」（鈴木忠平著・文藝春秋社）で、気の毒にも不名誉な「嫌われた監督」にされた落合博満・元中日ドラゴンズ監督、読んでみると嫌ったのは中日ドラゴンズ球団で、必ずしも選手、ファンではなかったように感じました。在任8年のうち、リーグ優勝が4回、リーグ2位が3回、3位が1回で、その間、日本一が1回、名監督です。

パリーグ・日本ハムが来期、新庄監督就任が決まりました。「優勝にこだわりません」というプロ野球人らしからぬ意外な一声、新監督を選んだ球団の意図が分かりませんので、大いに注目されます。優勝しなくても北海道のファンは、我慢するのでしょうか・・・。

\*\*\*\*\*

## 会 員 の 広 場

\*\*\*\*\*

中国人から見た日本人の言語表現心理(28)

愈彭年(83歳)

### 己を隠して自然的表現を好む心理

芳賀綾氏は『日本人らしさの構造』で「自然と融合する意識の持ち主である日本人には、人口や作為に反発する心理があります。不自然は嫌われ自然（ノママ）がよいとされます」「＜意志のある行為＞として叙述しようとせず、＜事態の推移（結果）＞として述べようとする好み」「日本語は深く＜状態叙述＞型に傾斜している言語」「自動詞型発想の日本人」などと指摘されている。その例として「お風呂がわきました」「お茶が入りました」「当店ではフランス語が通じます」「この列車は前寄り1号車、2号車と後寄り9号車が自由席となっております」「なお、全席禁煙となっております」などを挙げられている。

己を自然と融合させる意識はどこから来たのだろうか。先天的意識ではないはずだ。やはり日本という社会的環境から生まれて伝わってきたものだろう。夏目漱石は日本の世の中をこう分析している。「智に働けば角が立つ。情に棹させば流される。意地を通せば窮屈だ。兎角に人の世は住みにくい」。これでは人と付き合うのが当然煩わしくなり、自然のなかに逃げたくなる。自然は己に対して何も言わない。己は自然にたいして何も気にすることはない。そこで自然は己にとって優しく包んでくれる懐となり、その中で己は癒される。

それではなぜ人工や作為に反発する心理があって、不自然は嫌われ自然（ノママ）がよいのだろうか。自然では人為によらず、すべてそのもの本来の状態にある。そのため自然のままが好まれ、わざとらしい言動が不自然と見られて嫌われる。意思のある行為はわざとらしい言動にとられる可能性があるため、そのように叙述しようとせず、できれば事態の推移（結果）として述べようとするのではないだろうか。事態の推移（結果）として述べると意思のある行為が消えて己も消えて、自然の状態として述べられて「状態叙述」となる。このようなプロセスで日本人に「自動詞型の発想」が身に付いてきたのであろう。自動詞型の発想は叙述を他人事みたいに自然現象のような言い方にして、己の動作を表に現さず、動作の主体である己を隠してしまう。

芳賀綾氏は「お茶が入りました」についてこう分析されておられる。「全く日本風の静的な叙述法で、〈お茶をお入れしました〉と他動詞を用いた能動的な言い方で差し出すのよりもずっと日本人らしい。日本女性の物腰には殊にふさわしいものです」。

さらに「〈なる〉言語に浸った日本人」のところでは、こう指摘されている。「〈料金は一泊00円頂戴します〉を〈料金のほうは一泊00円となっております〉と言ったりします。〈6時に閉店します〉を〈閉店は6時となっております〉と言い、〈私達結婚シマス〉という挨拶状を〈私達結婚スルコトニナリマシタ〉としたりする」。このような表現はあちこちに見られる。

よく乗るバスのなかに最近バス会社からのこんな知らせが張られてあった。「紙式回数券が廃止になります」。廃止する当事者はバス会社自身なのに、「紙式回数券を廃止します」とは表現しない。通りで見かける「ゴミなどを捨てる」と処罰されます」類も同じだ。警告を出したものが処罰を加える当事者なのに、自己を隠してまるで他人のことを伝えるような表現である。遅刻してよく言う言葉「遅くなりました。申し訳ございません」では「遅刻」を状態の推移としてとらえて、意図的なのか非意図的なのかは言及しないで済むので、はなはだ都合のよい表現と言える。

直しあらためられる意味の「変わります」も同じく状態の推移としてとらえるので都合のよい表現だ。「変えます」と言えば意図的であるため、ときには差し障りがあって都合が悪い場合がある。したがって「変わります」と言ってしまうと状態の推移だから話し手とは何ら関係ないことになる。例えば環境対策課からの知らせで「来月からゴミの収集方法が変わります」と言われれば、不便になっても状態の推移だから致し方ないと受け取り、もし「来月からゴミの

収集方法を変えます」と言われれば、不便を知って何で変えるのだと反発するのかもしれない。これは言葉のトリックとも言えよう。(つづく)

\*\*\*\*\*

「再び、そうだ、京都に行こう！」—その3—

池端千一郎 (74歳)

令和3年10月12日。京都旅行の二日目である。朝起きて、「はてどこへ行こうか」と考え、知り合いから是非にと薦められた京都市伏見区内にある宇治川旧伏見港とその界隈を訪ねることとした。

伏見港までの経路は以下の通り。今回の旅の宿は四条烏丸の交差点からほど近いホテルだったので、まずは市営地下鉄でJR京都駅に出て、そこから近鉄電車で丹波橋駅まで行き、京阪電車に乗り換えて二つ目の中書島駅で降り、あとは旧伏見港区域内の三栖閘門資料館まで歩いた。

三栖資料館は宇治川右岸の旧伏見港区域の一画にある。そこで伏見港の歴史や役割について説明パネルや展示物でざっと一読した後に、旧伏見港の水路や壕川を巡る十石舟に乗船するために、乗り場のある月桂冠社の昔の社屋(酒蔵)のそばを目指した。

伏見港は京都市南部に位置する伏見区にある。その周辺地域を歴史的に振り返ると、風光明媚で良質な水が豊富にあったことなどから、平安時代には貴族や公家達が別荘地として利用された土地と言われている。それにしても今から1000年以上も前に、既に上流階級は別荘地を持っていたのだという事実には少々驚いた。

その後安土桃山の時代に秀吉が築城した壮大な伏見城の城下町として栄えた。但し、今回は京都の川と水路と散歩道を訪ねることが主目的の旅ゆえに、伏見城の城跡などには行かず、もっぱら江戸時代に川港として栄えた宇治川伏見港周辺の水路や街を探索することとした。

ちなみに、伏見港は京都と大阪をつなぐ船便の中継港として栄えた川港。江戸時代の初期、京都の豪商「角倉了以」により京都中心部から開削された運河「高瀬川」が宇治川に流入する地点の川港として大いに繁栄した。

すなわち大阪八軒屋と伏見港の間の約45kmを長さ17m幅2.5m乗客40人を載せた三十石舟が往来して人や荷物を運び、伏見と京都中心部の間は、人と貨物をより小型の高瀬舟に積み替え、高瀬川経由で運んだのである。

幕末の最盛期には伏見港と、大阪の八軒屋や淀屋橋などの間に162隻もの川舟が就航し、毎日9000人が利用したと言うから想像以上の輸送量だ。また伏見港から大阪天満橋近くの八軒屋までの移動時間は、幕末の快速便では京からの下りが6時

間、京への上りが 12 時間であったという。

また、旧伏見港と京都市内の間は、水深が数十センチと浅い運河「高瀬川」を航行できるように船底を平らにした高瀬舟と呼ばれる特殊な小型船を使用したとのこと。今でも京都中心部の高瀬川には当時の高瀬舟の実物が展示されている。

なお川の運航なので流れに逆らう下流側の伏見港から上流側の京都市中心部への航行では舟を人が引いての移動となり、ゆえに川沿いに曳子(舟曳き人夫)が舟を曳いて歩くための曳舟道が設けられた。

こうした舟の運航形態は高瀬川や宇治川に限ったことではなく、江戸の河川などでも普通に行われ、それを物語るように東京の墨田区内には今でも曳舟という地名が残っている。

この伏見港は幕末期に商人ばかりでなく、薩長土肥等の西国雄藩の志士達や海路で大阪まで来た佐幕派の武士達も、大阪・京都間の移動には淀川・宇治川経由の川舟を利用する者が多く、伏見港の船宿はこうした旅人で大いに賑わったという。

元土佐藩士の坂本龍馬も船宿「寺田屋」を京都滞在時の常宿としており、京都所司代による襲撃から、恋人おりょうの機転で辛くも逃げ伸びた話は良く知られている。なお寺田屋は今でも同じ場所に類似の建物が再建され、旅館として営業している。

ところで、伏見はまた良質な地下水に恵まれた土地でもあることから、古くは弥生時代から酒の生産が行われ、安土桃山時代に大きく発展して日本酒の産地として知られるようになった。この街には現在でも前述の月桂冠の他、菊正宗など 30 近い酒造メーカーの酒蔵が集積する日本酒の街なのである。

さて私は、月桂冠社の酒蔵そばの乗船場で十石舟に乗り、昔の伏見港の掘割りで今も残っている運河を 50 分ほどかけて遊覧した。水の流れや波に揺れることも無く、実にのんびりと気持ち良く兩岸の景色を楽しむことが出来た。お薦めの遊覧船である。

#### 江戸時代の伏見港再現図



#### 旧伏見港水路の遊覧用十石舟





江戸時代の月桂冠の酒蔵



同じく月桂冠の酒蔵



伏見港の船宿寺田屋



跡標の立つ寺田屋



\*\*\*\*\*  
本文は、前回・524号に掲載しましたが、事務局のミスで、後半部分が欠落してしま  
いました。よって、今回、全文を再掲載してあります。ご了承ください。

海外の思い出—ゴルフ場 色々 (2)

2021年8月27日

森永 善彦

### 3) 南アフリカ・クルーガーパーク(Kruger National Park)でのゴルフ

ロンドンに駐在している時に、会議で南アフリカヨハネスブルグに行きました。  
2005、6年頃の話です。会議は金曜日の午前中に終わったので、週末かの有名なク  
ルーガーパークに行く事になりました。金曜日の午後、ヨハネスブルグから小さなプロ  
ペラ機でクルーガーパークの近くの空港に向かいました。総勢、現地のスタッフやトヨ  
タ自動車関係者で7—8名です。  
クルーガーパークの近くのコテージ形式(サファリ形式)のホテルが宿泊所です。

敷地の中央にフロント、レストランと売店がある中央棟が有り、泊まるのはその周りにある小さなコテージで、2-3人ずつ分かれて入りました。広い敷地なので、食事をする中央棟までは歩いて数分の距離が有りました。

ホテルの敷地の周りは高さ3メートル位で最上部に鉄条網が張り巡らされた頑丈そうな金網で囲まれています。これは泥棒除けではなく猛獣除けです。夜間近くのクルーガーパークから出沒する猛獣が入ってこないようにしてあるそうです。もっとも金網が有っても偶に猛獣が中に入ってくる事が有るそうで、朝敷地内をジョギングしていたドイツ人の男性が黒豹に襲われ死亡した事も有ったそうです。

そんな話を聞いた後に、夜暗闇の中を夕食の為、コテージから中央棟に歩いて行くのは相当勇気が要りました。



次の日はクルーガーパークのサファリ観光です。ご存じない方の為に少し紹介しておきますと、クルーガーパークはヨハネスブルグ北東 350 キロ—400 キロの所にあります。大きさは南北 350 キロ、東西60 キロと広大な自然公園です。クルーガーパークは、南アフリカの隣国のジンバブエのゴナレゾウ国立公園、同じく隣国のモザンビークのリンポポ自然保護区と隣接していて、この3つの公園を合わせて大リンポポ越境公園と言う越境保護区の名で呼ばれる事もあるそうです。動物達は人間の定めた国境に関係なく、3つの公園内を自由に行き来しているそうです。

(クルーガー国立公園全景/左側の縦長の部分、右側の

色の薄い部分はモザンビークの公園です)

クルーガーパークでは多くの野生動物を見る事が出来ますが、その中でもアフリカ象、サイ、ライオン、豹、バッファローがビッグ5と呼ばれこれらを全部見る事がクルーガーパークのサファリ観光の最大の目玉となっています。

さてクルーガーパークでの初日はそのサファリ観光です。ホテルの前からサファリ観光の車に乗ってパークに入りました。半日位公園の中を見て回りました。但し1回のサファリ観光でビッグ5全ては余程幸運に恵まれないと見れない様です。アフリカ象、サイ、バッファローは数多く見ましたが、猛獣のライオンと豹は残念ながら見る事は出来ませんでした。

(ご参考までに文末にクルーガーパークでのビッグ5の写真を掲載しておきます)

ビッグ5に入っていないキリンは沢山見ました。仲間で遊んでいたのか3頭のキリンが土埃を立て、広場を走り回っている光景にぶつかりました。

日本の動物園ではキリンはゆっくり歩いています。自然の中を全速力で走り回る、背が高く重量の有るキリンの姿は結構迫力が有りました。

ゴルフの話なのでサファリ観光の話はこれ位にして、サファリ観光の翌日公園の近くのゴルフ場(残念ながら名前は記憶していません)で、2組でゴルフをしました。

自然公園の外とは言っても、かなり多くの動物がゴルフ場の中にいました。フェアウエー



ーの横の池の縁で何頭もカバが寝そべっていたり、猿がグループでフェアウエーを横切ったり、谷越えのショートホールは谷底が池になっていて大きなワニが5-6匹水辺で寝ていました。下に降りる階段が付いていました。

しかしこの谷にボールを打ち込むと例えニューボール

でも、ボールの回収は諦めた方が賢明です。

(これと同じサファリ専用の観光用車両で見学しました。)

(動物のいるゴルフ場のイメージ図です。)



あるパー4のホールで第1打を打ち終わり、第2打をグリーンに打とうとすると、何か大きな動物が3頭ほどグリーンの上で芝を掘り繰り返していました。

キャディーの黒人青年にあれは何だと聞くと、あれは猪であると答えました。日本の猪と似ていず、長い、太い牙を持っていました。アフリカに多く生息するイボイノシシでした。

(イボイノシシです。)



これからプレーするグリーンにイボイノシシがいては邪魔なので、キャディーに追い払ってくれと頼みました。しかしキャディーは、イボイノシシは獰猛で危険なので、近寄れないと言って、追い払う事を拒否しました。

それではプレー出来ず困るので、チップを割り増しにするから何とかして呉れと言うと、100メートル以上離れていましたが、大きな声を出し、アイアンのクラブを何本かイノシシに向かって投げました。もちろんグリーンには届きません。するとイボイノシシは我々に気が付いたのか、芝から頭を上げてこちらを睨み、しぶしぶゆっくりと移動を始め、藪の中に消えて行きました。それでやっとプレーを続行する事が出来ました。

グリーンの上には、イボイノシシが牙で掘り繰り返した跡が幾つも付いていました。

この様に野生の動物が多くいるゴルフ場でプレーしたのは、後にも先にもこの時だけでした。



尤も住んでいる仙台の郊外のゴルフ場にも多少野生動物はいます。カモシカ、狸、雉は何回もゴルフ場で遭遇しました。但し彼らはグリーンにいたずらはしません。クマとはニアミス(出沒直後にそのホールを通過した、見てはいません)をしたことが有ります。イノシシに遭遇した事は有りません。

海外での一寸変わったゴルフの体験記でした。ご精読有難うございました。

お約束の Big 5です。



(アフリカ象)



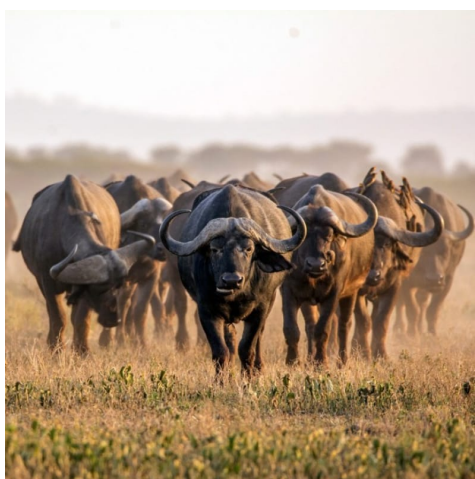
(ライオンの雄叫び!? 多分欠伸ですね!)



(サイ)



(狩りの名手、豹)



(バッファロー)

蘊蓄を一つ、ビッグ5とは、元々まだ野生動物を自由に狩猟の対象にしていた頃、仕留めた大物の上位5種類をそう呼んだそうです。今は勿論これらの動物を勝手に狩猟出来ません。

\*\*\*\*\*

もう一人の杉原千畝 東条英機を説得し ユダヤ人を救った陸軍将校(上)

望田 武司(札幌市在住、77 歳)

陸軍中将 樋口季一郎という人物をご存知だろうか。ナチス・ドイツの迫害から逃れるユダヤ人難民にビザを発給した人物としては、リトアニア駐在の外交官・杉原千畝がいて、“東洋のシンドラー”として、よく知られている。



実は軍人樋口季一郎も同じようにシベリア鉄道で逃れてきたユダヤ人を満州国に受け入れた人物である。ほとんど知られていない樋口季一郎の功績を称える記念館が、札幌の隣町・石狩市にある。農家の古民家の石造りの蔵を利用してできた記念館の入口には「偉大なる人道主義者 樋口季一郎記念館」という一枚板の看板が掲げられている。

1938 年(昭和 13 年)陸軍少将樋口季一郎は満州国ハルビンで、特務機関長として勤務していた。特務機関とは作戦以外の諜報活動や特殊工作等を行う特別の軍事組織で、そのトップである特務機関長はエリート将校のポストであった。



3 月 8 日、樋口のもとにある情報が舞い込んできた。ナチスから逃れてきた多くのユダヤ人が、ソ連領のオトポールで動けなくなっているというのだ。

オトポールは満州国に隣接しており、ユダヤ人たちはナチス・ドイツの迫害から逃れるため、シベリア 鉄道に乗って、満州に入ろうとしたのだが、満州国から 入国を拒まれて身動きが取れなくなっていた。食料もなくなり、また北満の 3 月上旬である、寒さと飢え で凍え死ぬ人が続出していた。

もともとこれらのユダヤ難民はドイツのフランクフルト に住んでいたが、ポーランドへ移り、そこからシベリア の極寒の不毛の地に追いやられ、シベリア鉄道で満州 から上海へ逃げようとオトポールまでやってきたのだ。

樋口のところに、かねてから親交のある病院経営の医師で、ハルピン・ユダヤ人協会会長のカウフマン博士が やってきて、「何とかならないか」と助力を求めてきた。



しかし樋口の所管外の事でもあり、自己判断で難民を受け入れることはできなかった。そこはまず満州国外務部に動いてもらう必要があったが、外務部には動きはなかった。下手に難民を受け入れてヒトラーから文句を言われたら、日本国政府に睨まれてしまうからだ。

しかし、満州国は日本国の強い影響下にあるとはいえ、「五族協和」「万民安居」を旗印に建国した国であり、その理想や独立性が失われていると樋口は感じた。「よし、外務部が寝たふりをするなら俺がやろう」樋口は難民の受け入れを決心する。カウフマン博士に「難民のことは、誰に文句を言われようと私が引き受けます」と伝え、博士は涙を流して喜んだという。樋口は直ちに満鉄総裁の松岡洋右に、難民をハルピンまで運ぶよう直接要請した。オトポールと国境を接する満州側の駅、満州里からハルピンまで 900 キロ、一日 1 本しか走っていない。

松岡は直ちに救援列車の出動を命じ、樋口が要請した 2 日後の 3 月 12 日、難民はハルピンに到着した。ハルピン駅のホームにはカウフマン博士やユダヤ人協会の人たちが、体を温める衣類や飲み物から救護班まで用意して待ち構えた。列車がホームに着くと難民は助かったとうれし泣き、やせ細った子供たちは牛乳瓶を見ると狂ったように飲み干して泣き喚いたという。難民は保護されたが、凍死者は十数名、処置が必要な患者は二十数名に上ったという。もう一日でも遅れていれば死傷者はさらに増えていたと思われる。

難民はその後 80%が上海経由でアメリカにわたり、残りの 20%はハルピンでの移住を希望し、樋口はそうした人たちに土地や住宅の面倒を見たという。樋口がユダヤ人を保護したことはドイツの耳にも入り、ドイツ政府は日本政府に強く抗議した。

＜満州国で、貴国の重要任務にあたる某ゼネラルが、我が国の国策を批判するのみか、ドイツ国家及び、ヒトラー大統領の計画と理想を妨害する行為に及んでいる。かかる要人の行為は盟邦の誓いも新たな日独 共同の目的を侵害するばかりか、今後の友好関係に影響を及ぼすこと甚大である。速やかに貴国における善処を希望する＞

このヒトラーからの恫喝ともいえる抗議に陸軍は動揺し、その日のうちに関東軍から樋口に出頭命令が出された。樋口は翌朝満州国の首都である新京(今日の長春)に出向き、関東軍トップの司令官に代わって実権を握っていた東条英機総参謀長によって査問が行われた。

樋口は「オトポールでユダヤ民族を進退両難に陥れるのがドイツの国策と言うのなら、それは人道に著しく反しています。このドイツの国策に日満両国が加担すれば、これまた驚くべき軽侮であり、人倫の道に背くものと言わねばならないでしょう。私はドイツと良好な関係であってほしいと思いますが、日本はドイツの属国でもないし、満州国も日本の属国ではないと信じています。ヒトラー大統領の肩を持ち、弱者を虐げることが参謀長は正しいと思われませんか？」樋口は東条の顔を見据えながらこう言ったという。

東条は一瞬言葉につまり、天を仰いでから曰く「君の話はもつともだ、筋が通っている。私から上に話し、この話は不問に付すよう伝えておこう。ごくろうさん」と言ったという。

なぜ樋口季一郎がこれほどまでユダヤ人に対する思いやりを示したのだろうか、樋口は回想録のなかで次のように述べている。「1925年(大正14年)ポーランドの駐在武官として南ロシア視察のためジョージアを訪れた際、ユダヤ人の老人と出会った。老人は私が日本人だとわかると家に招き入れ、ユダヤ人が世界中で迫害されていること、そして、きっと日本の天皇がユダヤ人を救ってくれる救世主になるに違いないと思っていることなどを涙ながらに話した。

オトポールでユダヤ難民が進退窮まっていると聞いたとき、13年前のジョージアの老人との出会いが脳裏をかすめた」樋口は回想録でこのように書いている。オトポール事件の前年、ユダヤ人協会会長のカウフマン博士は、ナチス・ドイツの迫害を世界に訴えるため、ハルピンで「第一回極東ユダヤ人大会」を開く許可を求めて樋口特務機関長に会い、樋口はこれを許可している。

その翌年、ユダヤ人の集まりに招かれた樋口は、次のように挨拶している。

「ユダヤ人はお気の毒にも世界いずれの場所においても、祖国なる土地を持たない。いかなる少数民族でも民族である限り何ほどかの土地を持っている。ユダヤ人はその科学・芸術・産業の分野においても他の民族と比べ、劣ることなき才能と天分を持っていることは歴史がそれを証明している。しかるに文明の花、文化の香り高い20世紀の今日、ユダヤ人に対する追放を見つつあることは、人道主義の名において、また人類の一人として私は衷心悲しむものである。行先を明示しない追放は、刀を加えざる虐殺に等しい。私は個人として心からこのような行為を憎む。」

樋口はこのように挨拶すると、集まったユダヤ人は全員立ちあがって万雷の拍手と歓声が起ったという。樋口は、オトポール事件を単なる一過性の人道主義として対応したということではなく、信念をもって行動したことを示していると思われる。

ロシア語など語学が堪能だった樋口は、▲思想界においてカール・マルクスやレーニン、▲学界においてはガリレオ・エジソン・アインシュタイン、▲音楽界において



は、ワグナー・ブラームス、メンデルスゾーン、▲文学界においてはハイネ、▲さらに経済界においてはロックフェラー、ロスチャイルドなど、それぞれの分野でユダヤ人が世界の指導者となったことをよく承知していたものとおもわれる。

樋口が認めたシベリア鉄道で満州に入って上海経由アメリカに渡れるルートは、その後ヨーロッパのユダヤ人に知られて「樋口ルート」と呼ばれた。リトアニアの「杉原ルート」は1940年ということなので、「樋口ルート」の方が2年早いことになる。

この樋口ルートで難を逃れたユダヤ人は2万人に上ったという記録がある。これは余りにも多すぎると疑問視されているが、満州国はドイツへの外交的配慮からか、具体的な数の公的文書は残していない。

ただ東亜旅行社(今日の日本交通公社)の記録によると、ドイツからシベリア鉄道で、満州里経由満州に入国した人数は、最初の1938年は245人だったが、39年には551人、40年には3574人と膨れ上がっている。(その後の記録なし)当時の関係者が「列車が着くたびに20人、30人のユダヤ人が押しかけ、4人の所員では手が回らず、発券手配に忙殺された」と回想しており、相当数のユダヤ人が樋口ルートで難を逃れたとみられる。

樋口特務機関長は間もなく異動でハルピンを離れることになった。ハルピン駅には見送る2000人の人であふれ、中には樋口の手配でハルピンの奥地に入植したユダヤ人の姿もあった。彼らは数十キロ離れた開拓地から馬車に乗って見送りに来たのだ。駅頭に立つ樋口を見て、日の丸や満州国旗が振られて一斉に万歳の声が沸き起こり、口々に「ゼネラル・ヒグチ」の連呼が続いたという。

樋口季一郎の行った行為はそれだけでない。樋口はその後陸軍中將となり、終戦直前には北海道より北の千島樺太を統括する第五方面軍司令官となる。そして天皇の玉音放送が放送された後でも、戦闘を指示していた。なぜだろう？(つづく)

\*\*\*\*\*

## 国立慕情 (8)

津田孚人 (84歳)

昭和6年10月3日、

「井上蔵相にあつたら思い切ってビンタを張れ、退学を怖がっていたら片付かんぞ、諸君の身分保障はわれわれ教授団が責任をもって引き受ける。安心して思い切りやってこい」とハッパをかけられて出かけた学生陳情団は、代表者・相京光雄(本科3年)、長谷川徳次(本科3年)、石川精一(本科2年)、石井滋(本科2年)、藤本恒雄(本科1年)、久米吉左衛門(予科3年)、横瀬正雄(予科3年)、高橋若松(専門部3年)、小川任一郎(専門部3年)の9名だった。

多くの新聞記者、随員に囲まれた蔵相に、ビンタを張るところでなく、辛うじて一人が、割れんばかりの大声で「商大の予科と専門部とを潰すとは何事か、撤

回してもらいたい」と迫っただけだった。蔵相は、呵々と大声で笑い、「財政が不如意でね」と財政緊縮で予算がないと繰り返すだけだった。立ち合った新聞記者は、「学生はテンデ歯が立たず、むしろ蔵相の対応に感心した」と書いている。

陳情学生団は、強いショックを受けた。「これを押し返すのは、大ごとだ。並々のやり方で行ったら、絶対に負けた」と蔵相官邸から引揚げる。待機していた学生たちに会見の報告をし、一団となって戻り如水会館の中庭に集合した。討論する中で、今後、反対運動を続けるには、組織をつくるべし、との声があがり、陳情団のメンバーが主体となって全学生を指揮する統制部を、結成することにした。

委員長には相京光雄代表が就任、教授会との連絡を一手に引き受けた。各クラスに伝達するために、連絡部を設けた。連絡部のメンバーは、ボート部、剣道部、柔道部、陸上競技部の各委員長、部員から選ばれ、組織は運動部と一橋会幹部でがっちりと作られた。

## 余談

- ① 登場した運動部は、端艇、剣道、柔道、陸上競技の4部だが、陸上競技をのぞく、端艇（ボート）（明治18年）、剣道（明治33年）柔道（明治32年）の3部はいずれも明治時代の創部であり、陸上競技部も大正11年創部で比較的早い。4部ともに古豪の部で、部員数も多かったと考えられる。しかし同じく創部の早かった弓道部（明治37年）、ラグビー部（大正11年）が加わっていないのは、たまたまなのか、何か理由があったのか知りたいところ。
- ② 戦前、東京、神戸、大阪の3商大で三商大戦を行っていた（戦後も旧三商大戦として続いている）。スタートは、柔道（昭和6年）、剣道（同9年）、端艇（ナシ）、陸上競技（同13年）とマチマチだが、一番早かったのが水泳、ラグビーで昭和4年、以後、弓道（5年）、バスケット（9年）、バレーボール（12年）、卓球（13年）と続いた。  
籠城事件のきっかけとなる、昭和6年当時、多くの運動部が人数、力量を有していたと思われ、運動部の参加は、心強かったに違いない。

学生団の組織は、時間が無い割りには準備周到だった。統制部の補佐に 交渉部、報道部、会計部の3部を置き、報道部は「一橋新聞」の部員が担当、都下の各新聞社と緊密な連絡をとり、記者たちに事件の推移過程で発生するニュースを積極的に提供することにした。また学内もガリ版で「報道部ニュース」を作成配布することにした。会計部は籠城に備えて、食事や、寝具の調達という兵站業務を行うことにした。

10月4日、

午前10時から学生大会を神田一ツ橋旧校舎のAホール（現在の共立大学のキャンパス）で開催。集まった約1500人の学生に対して、前日の蔵相との会見模様を報告した。すると、学生たちは、交々壇上に立ち、「暴挙を一致団結して撃破しよう」と声をあげた。

大会後、交渉委員が「次は文部大臣との談判だ」と官邸に向かうが、多数の学生が三々五々雨の中を同行、警戒に当たっていた麹町署、錦町署の警官と衝突した。数名が検束されたが、交渉委員が明5日、文部大臣と正式会見する約束を取り付けたので一旦解散、旧校舎へ引き上げた。

各運動部は秋のシーズンを迎え、対外試合が予定されていたが、3日、4日と事態の陰悪化するのを見て、尾本信平（陸上競技・本科2年）をリーダーとする本科運動部（16部）は、この日、急遽総合懇談会を開き「母校の危機に際し、全運動部は一切のスケジュールを全面的に停止し、打って一丸となって反対運動の第一線にたち、あらゆる障害をのり越えて目的貫徹のために勇往邁進せんことを誓う」との決議をした。

決議は翌5日に公表されたが、すでに4日からの街頭デモ、その他において、運動部が常に第一線にたって活躍した。運動部総合懇談会の4日の決議が闘争の全運動に与えた影響と貢献度とは、きわめて大きかった。

午後2時頃、交渉委員が首相官邸に向かったとの情報が入り学生たちは忽ち首相官邸に押し寄せた。しかし、若槻首相は不在、私邸にいるとの情報があり官邸付近の警戒網をすり抜け、約400人の学生が小石川大和村にあった首相私邸へ押しかけた。

デモ隊が到着する前に、交渉委員二人が私邸に到着、常駐の巡査がたまたま不在で、私邸玄関のベルを押すことが出来た。名刺を出すと、「しばらくお待ちください」と応接間に案内され、先客があるということで、30分ほど待たされた。その間に3人の他の交渉委員も合流でき、都合5人で首相に面会できることになった。

その時の先客とは、後に分かったが元老西園寺公望の特命をもって訪れていた男爵で、柳条溝爆破（9月18日）で始まった満州事変が勃発して2週間後、現地関東軍が電光石火の勢いで満州を占領、独走が始まった時であった。国難を迎えている重大な時に、交渉委員は、首相のもとへ飛び込んだのである。

申酉籠城事件史は、時代背景を以下のように説明している。

① 昭和6年（1931年）秋は、10年このかた集積されてきた矛盾が一気に

噴き出し、政治、外交、金融、経済、の各部面で断層的な激変が生じたことで、物情騒然としていた時であった。遠く第一次世界大戦に発生した赤字台風、その後10年にわたって実行された放漫極まる行政・財政政策と中国への干渉戦争に要した巨額の上乗せ出費で、累積赤字の超大型台風がさらに急速に拡大していた。この超大型台風を温帯低気圧に変えようと努力していた「蔵相・井上準之助」が発信元となった、「東京商科大学の予科と専門部を廃止する」という学園の根幹を揺るがす強烈な突風が、そのとき一橋の国立と石神井に吹付けていた。

②昭和5年、世界大恐慌のため輸出の中心生糸が暴落し、農村では繭が暴落したうえに、米価、野菜も急落し、空前の農業恐慌に見舞われた。北海道、東北は、夏季の異常気象で冷害・大凶作となり、農村は惨憺たる状況に陥った。工業生産も急低下、弱小企業は倒産、大企業では、首切りと賃下げが横行した。

新聞に、「東京帝大法学部卒業生の巡査現わる」とか「チンチン電車の車掌に東大生採用」などの記事が出ていた。またこの時期、「この惨状を救うには、社会主義革命以外にない」とする左翼思想が純真な学生に浸透し始めた。このような惨状は日本国内にとどまらず、朝鮮、台湾、半植民地の満州でもあり、弾圧と経済的な苦しみに耐えかね、労働争議、小作争議が多発し暴動も起きていた。

(つづく)

\*\*\*\*\*

## 事務局

\*\*\*\*\*

天地シニアネットワーク事務局（津田 孚人）

〒116-0001 荒川区町屋3-2-1

ライオンズプラザ町屋703

メールアドレス：[tentisenior06@gmail.com](mailto:tentisenior06@gmail.com)

電話・FAX 03-3819-7651